これからのアメリカの同盟政策

アメリカの同盟政策は戦後の国際秩序の中心を担ってきた．同盟は潜在敵国の現状変更行動を思いとどまらせ，戦後の国際体制への変更行動の抑止に寄与している．しかし，時代の変化とともに国際関係も変化し， NATOや日米同盟などアメリカの伝統的な同盟関係に批判的なトランプ米大統領をはじめとし，アメリカの同盟関係を再考する流れも見られる．本稿では，*Foreign Affairs*誌でMichael O’Hanlon氏が“Can America Still Protect Its Allies? How to Make Deterrence Work”の中で新時代における防衛同盟について提起している課題を基に，これからのアメリカの同盟政策のありかたを考察し，政策含意を導く．

　まず，同盟の基本的な論理を振り返る．防衛同盟の目的は，潜在敵国が軍事衝突へ至る可能性のある挑戦行動を取る動機を削ることによって，国際紛争を未然に防ぐことである．この為に，同盟国は軍事衝突が勃発した場合には相互に軍事協力することをシグナルとして発信する．有事における同盟国同士の協力は，互いの軍事力を上げ，戦争コストを下げ，また敵国の戦争コストを上げる効果を持つ．よって，有事の際の同盟国間の協力が確定していると，潜在敵国の交渉力は低減し，同盟国の交渉力が上がるので，潜在敵国は現状変更行動に出にくくなる．以上のメカニズムより，アメリカの同盟関係はアメリカが同盟を結ぶ国への挑戦行動を未然に抑止するという意味で拡大抑止に寄与している．

　しかし，同盟の拡大抑止効果を発揮するには，有事の際に同盟国が介入して軍事協力を行うという介入コミットメントを潜在敵国が信じる必要がある．介入コミットメントが信憑性を持つ為には，同盟のコストが重要である．同盟は平常時に抱える財政的な費用や同盟国の紛争に巻き込まれるリスクなどの多大なコストがかかる．介入の意思を持たない国には払えない多大なコストを払うことで，紛争の際に介入する軍事的能力と意思を持っていることを潜在敵国に示し，介入コミットメントが空脅しではない事を示せる．介入コミットメントを信じて初めて潜在敵国は現状変更行動を避け，平和は保たれる．よって，同盟が拡大抑止効果を発揮し続けるにはコストを払って信憑性を確立することが何よりも重要なのである．

　 O’Hanlon は以上のような同盟の論理がこれからの時代でも拡大抑止効果を保つことができるか疑問を呈する．前提として，米国が以前対立していた潜在敵国と，中国とロシアのように近年米国が対峙する潜在敵国の性質の違いを区別する．戦後，長期にわたりアメリカの最大の脅威であったソ連は，国際システムの大幅な変革と覇権の掌握を求める超勢力であった．そのため，ソ連からの現状変更行動は全面的な戦争に発展する可能性の高い大胆なものが危惧され，それを牽制する為には大規模戦争を前提とした抑止政策が用いられた．しかし，現在の中国とロシアは冷戦期のソ連のように覇権を追求し，国際秩序の再編を志向する超勢力ではない．むしろ，ソ連と中国は米国主導の国際秩序の部分的な調整と小規模な変更を求めるに過ぎないとO’Hanlonは指摘する．例えば，中国の尖閣諸島の領有権主張など，米国にとって無価値に等しい小規模な現状変更行動が今後予想される．

　上記を踏まえた上で，O’Hanlonは以下の結論を導く．まず，トランプ大統領による同盟への批判はアメリカの介入コミットメントの信憑性を下げ，拡大抑止を弱めてしまっている．しかし，同時にこれから想定される小規模な紛争は介入コストが高いが，その規模の小ささ故にアメリカにとって介入の便益がほとんどない．軍事衝突でのアメリカの介入はさらなる大規模な戦争や核戦争へと発展するリスクが存在する為，例えば上で挙げた日中の領土紛争のような場合，中国から現状変更行動があってもそれを武力で迎え撃つことは躊躇われる．他方で，介入を果たさない場合はアメリカの戦争意欲が低い事を潜在敵国へ露呈してしまい，介入コミットメントの信憑性が損なわれることで未来の現状変更行動を招く可能性がある．このジレンマを解消する方法として，O’Hanlonは経済制裁を提案する．経済制裁は計画的に行われれば軍事介入のような大きなコストを伴わない．さらに，経済制裁による抑止は，小規模でアメリカにとってほとんど無価値な現状変更行動が巨大なコストのかかる大規模な戦争へと発展するリスクを大幅に下げる．このように，小規模な現状変更行動には武力介入ではなく経済制裁で対処することで，潜在敵国の現状変更行動のコストを高めてその動機を削り，また自身の介入コストや戦争の危険を低くすることができるとO’Hanlonは主張する．

　　ここで，O’Hanlonの議論を同盟の理論と照合して検討する．まず，前提の妥当性から検討する．アメリカと中国，ロシアにはいまだ大きな軍事力の差が存在し，2019年の各国の軍事予算を見るとアメリカは中国の三倍近く，ロシアの十倍以上であった (Tian et. al., 2020). また，現行の国際秩序は両国に経済的利益をもたらしており，多角的な条約や制度によって武力以外で現状変更を図る経路が用意されている (Ikenberry, 2018). 以上より，両国にとって武力による大きな現状変更行動はコストが高く，便益が低いので，このような変更行動を求めず，小規模な現状変更を求めるとする前提は現実的である．

　次に，トランプ大統領の同盟批判が拡大抑止を弱めているという結論は，同盟の理論と整合的である．先述したとおり，同盟が抑止効果を発揮するには介入コミットメントが信憑性を持つことが何よりも重要である．国のリーダーが介入に対して後ろめたい考えを発言すれば，その国の戦争意欲の低さを潜在敵国に知らしめ，介入がないことを期待させ挑戦行動を誘発してしまう．

　ここまでO’Hanlonの主張はもっともである．しかし，これからの抑止として提示される経済制裁は，同盟の論理に照らすと問題がある．O’Hanlonが指摘する通り，米国が軍事介入ではなく経済制裁を選択するインセンティブは，軍事介入によるコストが便益を大幅に上回り，軍事介入は大規模な戦争に発展するリスクを抱えているからである．よって，経済制裁を選択する事は潜在敵国にこのような米国の動機を伝達する結果となり，米国の戦争意欲が低く，戦争コストが高いと理解されかねない．同盟が抑止効果を持つには介入の信憑性が大事だが，このような情報の伝達は信憑性を下げ，潜在敵国の小規模な現状変更行動を招く可能性がある．また，Petrescu (2010)によると，制裁国のGNPが非制裁国のGNPの100倍を超える時に経済制裁は抑止効果を持ち，その効果は将来紛争を8%減ずるに止まる．よって，抑止の有効性の観点からも，抑止のための経済制裁は得策とは言えない．

　代わりに，米国は同盟国のいかなる矮小な係争にも軍事介入するべきである．確かに，それは多大なコストを伴う．しかし，上で触れた同盟の論理より，同盟のコストが介入コミットメントに信憑性を持たせ，拡大抑止に寄与するのである．よって，小規模な紛争への軍事介入も同盟に信憑性を付与するコストの一部として考えることができる．

　以上より，時代の変遷にかかわらずアメリカは今までの同盟関係を批判する事なく堅持し，それを揺るがすいかなる現状変更行動にも武力で厳格に介入するべきである．こうする事で介入コミットメントの信憑性を高く保ち，拡大抑止で平和を維持することができる．

（本文2944字）

参考文献

Ikenberry, J. G. (2018). Reflections on after victory. *The British Journal of Politics and International Relations*, *21*(1), 5-19. Retrieved from: https://doi.org/10.1177/1369148118791402

O'Hanlon, M. (2019, Sep). Can america still protect its allies? How to make deterrence work.*Foreign Affairs, 98*, 193-198,200-202. Retrieved from: https://search-proquest-com.ez.wul.waseda.ac.jp/docview/2275085259?accountid=14891

Petrescu, I. M. (2010). Rethinking economic sanctions success: Sanctions as deterrents. University of Maryland. Retrieved from: https://www.aeaweb.org/conference/2011/retrieve.php?pdfid=433

Tian, N., Fleurant, A., Kuimova, A., Wezeman, P. D., Wezeman, S. T. (2020). Trends in world military expenditure, 2019. *Stockholm International Peace Research Institute*. Retrieved from: https://www.sipri.org/publications/2020/sipri-fact-sheets/trends-world-military-expenditure-2019